

### 1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2870700610		
法人名	有限会社 日本健康管理システム		
事業所名	グループホームひまわり		
所在地	兵庫県神戸市須磨区行幸町4-4-8		
自己評価作成日	令和3年6月29日	評価結果市町村受理日	令和3年7月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>季節に応じた壁飾りを行ったり、イベントを楽しんでいただいている。 理念である「ゆっくり・一緒に・楽しく」をスタッフが把握し利用者様との関わりの中に取り入れている。</p>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/28/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JlgvsoyCd=2870700610-00&amp;ServiceCd=320">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/28/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JlgvsoyCd=2870700610-00&amp;ServiceCd=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人ば・まる
所在地	堺市堺区三宝町二丁131番地2
訪問調査日	令和3年7月6日

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>コロナ禍の制限下において、外部への行事やイベント等が制限されているため、施設内で開催するイベントや行事を拡充することで、利用者にも楽しみや動機付けが行えるよう努められています。感染症状況を踏まえた上で、近隣への散歩や外出など可能な範囲で施設外での活動に配慮されています。理念である「ゆっくり・一緒に・楽しく」の実現のため、寄り添う支援を心がけられており、利用者が苦にならない、負担を感じない支援の提供を配慮されています。利用者の尊厳と自立の維持のため、排泄自立には特に留意されており、排泄自立の改善に繋がった事例が複数確認できました。福祉サービスの基本である、利用者本位、自立のための支援の推進を、職員間で共通した意識として形成し、理念の実現のために努められています。運営や支援に関する改善や検討は、職員主体で行われており、職員間の意思形成を主体にすることで、支援に対する意識の向上と利用者本位の自立支援への取り組みが、より推進される体制の構築へと繋がられています。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆっくり・一緒に・楽しく」の理念を掲げ、日々の支援の中に実践できるよう毎日、唱和している。	理念の実現のために、寄り添う支援、せかさな支援、押しつけない支援に努められています。利用者への支援や運営については、職員間の話し合いで、理念に沿った支援の提供にはどうしたら良いかを自らが考え、理念の実現を意識した取り組みがなされています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所の催しには地域の方にお知らせを配布し、自治会の活動には事業所から参加している。	地域の一員として、自治会活動への参加も可能な範囲で行われています。地域で主催される地域カフェへの参加や、施設行事を地域の方々へ開放し参加を促されていましたが、コロナ禍の制限下において現在は自粛されています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	併設の小規模多機能事業所と一緒に認知症サポーター養成講座を開催していた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では出席者からのご意見や要望がある時には取り入れている。	コロナ禍の制限下において、面談での開催は困難ですが、施設側から資料を送付し、また、ご意見等を聴取することによって、施設運営に活かせるよう努められています。制限下においても、双方向の意見交換ができる手段の拡充に努められています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	利用者個人での担当の方とは連絡は取り合っている。 地域包括との連携は取っている。	支援にかかる内容に限らず、利用者の生活を支える上で必要な行政との連携が図られています。利用者個別課題について必要な行政支援が受けられるよう努められています。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修を実施し、職員や新入職員が正しく理解できるよう取り組んでいる。 この数年は職員も交えて話し合いを行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。3か月に一度、身体拘束防止委員会を開催し、職員に周知している。	3ヶ月に1回、委員会の開催があり、内容は職員に共有されています。職員には年間2回の研修が行われています。研修の際は、単なる講義ではなく、職員相互が事例を検討し、意見交換をする場にする事で、理解の促進と意識付けの維持に努められています。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	1年に2、3回研修を実施し職員の意識づけを図り、個別での調査から職員一人ひとりが抱えている問題を理解するよう努めるようにしている。	年2回虐待に関する研修が実施されています。研修終了後は、感想を研修報告書で提出することで、職員個々の意識やスキルの把握がなされており、職員個々に必要な研修指導へ繋がっています。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎年、研修計画に取り入れており、職員は成年後見制度への理解はある程度分かっている。	年1回職員研修が行われ、権利擁護の対する意識の継続と、振り返りに繋がっています。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時に十分説明し、理解が得られるように努めている。契約解除の時も再度、説明をおこなっている。	契約時には、金銭面や退去時等、トラブルとなりやすい部分を理解頂けるよう丁寧に説明されています。利用者の生命に関わる緊急時対応や医療方針等についても、意向を踏まえた上で出来る事出来ない事を伝え、理解を得た上で、契約に至っています。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族等からの意見や要望を可能なものに関しては、管理者や職員に表せている。	運営推進会議での意見や家族面談時の意見聴取を基に、運営に反映できるよう努められていましたが、コロナ禍の制限下において聴取が困難となっており、今後は電話や書面での意見意向聴取の拡充が予定されています。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業所内で開催された各会議等に管理者は出席し、出された意見や要望を受け止めて代表者や法人内の会議で伝えている。	日々の運営や課題については、日常から職員間で話し合っており、職員自らが主体的に提案や意見を出せる仕組みが、施設内で形成されています。施設長は、職員の合議を尊重し、施設の方針に沿う範囲で運営への反映がなされています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力、実績や勤務状況は管理者からの報告があり把握できている。就業環境の整備は代表者として努めるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各連絡会に加入し交流する機会があり、情報交換などから、サービスにいかせている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居面談時に本人が困っている事や不安なことなどを聞き、安心を確保するための関係づくりをするようにつとめている。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の相談があった時点から家族等が困っている事や不安なこと等の相談を受け関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談があった段階で今、必要とする支援を見極め他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は本人と暮らしを共にする者同士の関係を築くように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は本人と家族の絆を大切にしながら、家族も一緒に支えていく関係を築くように努めている。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人との面会があり、馴染みの場所に行くなど関係が途切れないよう努めている。	コロナ禍の制限下において、面会や外出機会の確保が困難な状況を踏まえ、利用者情報の収集方法の拡充実施を検討されています。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、また利用者同士が関わり合える関係ができるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も家族からその後の経過を聞くなど必要なアドバイスをするなど努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの暮らし方の希望や意向の把握に努めている。	利用者からの傾聴に努め、さりげない会話の中から意向や思いを把握できるよう努められています。表情の変化にも留意され、意向に沿った支援となっているか検討されています。	利用当初からの一貫した思いや意向の把握と、それを拡充していく仕組みの整備がなされると、さらなる支援の質の向上に繋がるかと思われます。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	馴染みの暮らし方や生活歴を関係者から情報を把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方、心身の状態や有する力等を日々の記録から把握するよう努めている。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい
26	(13)	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>毎月行うモニタリングと日々のケアのあり方について関係者から意見や要望等を聞き、話し合いの中で現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>職員が日々の支援で得た気付きや主治医等の意見も踏まえ、現状に即した介護計画の作成が出来るよう努められています。</p>	<p>意向や目的、目標をより明確化していくと、支援に対する意識向上にも繋がるかと思われます。</p>
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の様子やケアでの気づき、工夫を記録に残している。情報の共有を図り、話し合いの場でも介護計画の見直しに活かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>事業所の特性を生かし、本人や家族の状況やその時々生まれるニーズに対応して柔軟な支援やサービスを多機能に活かしている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>自治会の広報や民生委員からの情報から地域の催しや活動に参加し日々の暮らしを楽しめるように支援している。</p>		
30	(14)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人や家族の希望されたかかりつけ医の受診が受けられるよう支援している。</p>	<p>かかりつけ医は利用者並びに家族の意向を踏まえて決定頂いています。提携医は月2回の往診があり、緊急時は電話や画像提供によって、適切な指示が受けられる体制が整えられています。</p>	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい
31		<p>○看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>日常の関わりの中で情報や気づきを伝え、相談してもらっている。</p>	/	
32	(15)	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院した時は、医療機関に必要な情報を伝えて安心して治療が受けられるよう支援し、入院中も医療関係者や家族から情報を把握するよう努めている。</p>	<p>入院時には、入院先医療機関と情報交換を行い、適切な医療の提供に繋がるよう努められています。退院時には、カンファレンスに参加し、医療状況を踏まえた介護計画の策定と支援の提供に繋がられています。</p>	
33	(16)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>契約時に事業所の方針を説明し、元気うちに本人や家族の意向を確認するよう務めている。日々暮らしていく中で重度化してきたときも再度説明し、必要な支援を行っている。</p>	<p>契約時に、終末期や医療に関する説明と同意が行われています。特に医療方針等については、丁寧に説明し、十分な理解を得た上で、出来る事出来ない事を意向を踏まえた上で話し合われています。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>全ての職員が急変時の対応や応急処置の訓練は行っていないが、研修の実施は定期的に行っている。</p>	/	
35	(17)	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>火災時の避難訓練を年2回実施している。その他の災害時の対応は研修を行っている。訓練時は地域の協力が得られるように取り組んでいる。</p>	<p>夜間想定避難訓練も実施されています。地域と連携した避難訓練が計画されていましたが、コロナ禍の制限下において実施には至りませんでした。緊急持ち出し袋が用意されており、避難時に必要なものが持ち出せるよう準備されています。</p>	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員が言葉かけの対応ができていないことがある。研修の場で話し認識するように努めている。	利用者個々の価値観や考えを踏まえた声かけや接触を心がけられており、尊厳を損なわず楽しく生活して頂けるよう支援が心がけられています。無理強いのない支援、利用者個々のペースと思いで生活できるよう配慮し、利用者を大切に支援を目指されています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活のなかで本人の思いや希望を表したり、自己決定ができるよう取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを尊重し、本人の好きなように過ごしていける様支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出やイベントにはおしゃれができるよう支援し、身だしなみも気をつけるようにしている。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は決まっているが好みに合わせて工夫することはある。料理の下ごしらえを手伝ってもらっている。おやつは手作りの物に変えるなど楽しみにしてもらっている。	コロナ禍の制限下において、施設内の楽しみの拡充を心がけ、食事の用意や盛り付け等で、楽しさを補えるよう努められています。できる事は利用者が一緒に取り組まれており、作る楽しみや役割を持つやりがい等が維持されるように配慮されています。	

令和3年度 グループホーム ひまわり

自己	第3	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事量や水分量を記録し、食事量が低下している時は主治医に相談している。一人一人に応じた食事形態や摂取方法を考えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨きやうがいを実施し、その人の出来る力に応じて支援している。歯科医や歯科衛生士の指導・助言をもとに口腔ケアに取り組んでいる。		
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個々の状況に合わせた方法で支援している。	利用者の排泄自立維持を意識した支援が心がけられています。日中はオムツ利用を減らすなど、排泄自立度の改善や維持に繋がられた事例が確認できました。誘導時には、プライバシー配慮に留意し、利用者の尊厳を損なわないよう努められています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人一人の排泄の状況を把握し、便秘にならないよう水分摂取量を確認するなどの対応をしている。便秘時は主治医に相談している。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴ができるよう支援している。入浴予定日は決めているがその日の体調や気分に応じて変更したり清拭にするなど柔軟に対応している。	入浴時は、せかしたり無理強いすることなく、利用者個々のペースと気分にあわせた支援の提供に努められています。脱衣所含め区画されたスペースが用意されており、プライバシーの配慮に努められています。	

令和3年度 グループホーム ひまわり

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状況に応じて休息したり、夜間は安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者個々の服薬の内容がいつでも把握でき、目的や用法等の確認を必要時に行っている。その人に応じた服薬支援をしている。調剤薬局との連携もとっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの出来る力や役割、楽しみ事などの気分転換等の支援をしている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	その日の希望や一人ひとりに応じた外出を家族様の協力もいただき支援している。日々の散歩は天気や状態に応じて出かけられるように支援している。	コロナ禍の制限下において、遠出は困難なため、施設近隣の散歩や、敷地前で外気に触れる機会、歩ける機会の確保が行われています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いを所持して職員と同行で買い物等される利用者や家族の希望で事業所で金銭管理している方などそれぞれの事情に応じて支援している。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話を取り次いで会話ができるよう支援している。本人からも要望があれば、電話をかけ、関係が途切れないように支援している。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間では、季節を感じられるようにその月に合った壁画を利用者と一緒につけて掲示したり、料理をするなどの家庭的な雰囲気があり、居心地よく過ごせるように工夫している。	共用空間には、季節に応じた装飾を利用者さんと一緒に行い、季節感の演出と空間の賑わいを醸し出しています。清潔感がある空間作りに配慮されていますが、生活感を損なわない範囲で、温かみのある空間作りに努められています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間で気の合った方と一緒に過ごせるように座席の配慮を行っている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前より用意する物を説明し、馴染みのものや使い慣れた物を用意して頂くようお願いしている。居室で居心地よく過ごせるよう椅子やテーブルを用意している方もいる。	居室へは安全性に問題がない限り、持ち込み品に制限はなく、従前の生活の延長としての居場所づくりが勧められています。利用者は馴染みの品や思いでの品、調度品等を持ち込み、自らの居場所づくりが行われています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリー対応をしているが、その人の状態に応じて階段を使うなどの自立した生活を維持できるように支援している。		